

be on Saturday

人の弱さをいとおしむ

森田童子「ぼくたちの失敗」

屋下りの無人駅のホームにそそぐと降り立ったのはたった1人、私だけだった。

新潟県の長岡駅から乗ったJR信越線の鈍行列車が、終着駅の直江津(上越市)めざして走り去ると、潮の香をきくんだ微風がホームを吹きぬけた。眼前に現れたの

は、陽光を照り返しながらも寒々としている海原だった。

日本海沿岸の柏崎にある、この青海川駅は、「日本でいちばん海に近い駅」と名乗りをあげている、いくつもの駅のひとつだ。長岡行きの鈍行列車が日に12本しか停車しない下りホームは波に洗われそうなるほど海辺に迫り、洋上の駅にたまたまいるかのようなシニールな錯覚に陥りそうになる。

窮屈な待合室とトイレしかない駅舎には、「青海川日記」と表書きされた、誰でも書きこめるノートが置いてある。それを読むと、この駅はいまだに、あの背徳と禁断の愛の物語を追憶する手がかりとされていることが分かるのだ。

「あれから17年。ついに来ました。荒れる日本海。2人の運命は……ありがとう『高校教師』」

「今日がついに、私も高校教師になって、ここに来ました！」

「高校教師」は1993年にTBSテレビ系で放映されたドラマだ。東京の女子高に赴任した生物教師羽村隆夫(真田広之)と2年生の二宮繭(桜井幸子)は、孤独と絶望を抱えて引かれあい、最終回、ついに救いのない逃避行へ旅立つ。終幕の間際、2人は晩冬の青海川駅から列車に乗りこんだ。車内で肩を寄せ、もたれあうように座っている2人は、たがいの

小指を赤い糸で結びつけていて、まろろんでいるだけなのか、永遠の安眠へ近づこうとして情死してしまったのかは判然としない。

この謎めいたラストシーンにも重ねられて流れてくる主題歌が、「ぼくたちの失敗」だった。

この歌は、ドラマが放映される17年も前に、女性シンガー・ソングライターの森田童子(58)のレコードに吹きこまれていた。しかし、まさしく、やさしく狂っていく男と女の鎮魂歌として聞き取れたので、新曲と思い違っていた人も少なくなかった。

ヒットメーカーの脚本家の野島伸司(47)と組んで、「高校教師」を手がけたプロデューサーの伊藤一尋(54)は、「あの歌も、ドラマの心強い『共演者』でした」と思い起こす。

ドラマ主題歌は当時、大物ミュージシャンに新曲を書いてもらうのが主流のやり方だった。ところが、「高校教師」は、近親相姦やレイプを題材として、禁忌さえ犯す、人の根源的な弱さへ分け入る

自死によって絶筆となった太宰治の小説と同名のアルバム「good-bye (グッド・バイ)」は森田童子さんの最初のレコード=写真=で、1975年初冬に世に出た。遅れてきた叙情フォークというほかない曲調に、発売元のポリドールは売れ行きを危ぶんだ。そのため、歌手のモノクロの肖像写真をジャケットにあしらったこのLPは初回、2千枚しかプレスされなかったという。

「ぼくたちの失敗」は、その1年後に発売された2枚目のアルバム「マザー・スカイ」の1曲目に収録されている。これも当時、ヒットとは無縁で、知る人ぞ知るアングラの名曲にすぎなかった。

93年にTBS系のテレビドラマ「高校教師」の主題歌となり、17年ぶりにCDで再発売されると約95万枚を売り上げ、オリコンのヒットチャートで最高5位を記録した。



文・保科龍朗
写真・橋本弦

e2面に続く



ドラマ「高校教師」の世界を追体験しようと、いまだに青海川駅ホームに降り立つファンもいる。新潟県柏崎市

Song

※春のこもれ陽の中で
君のやさしさに
うもれていたぼくは
弱虫だったんだヨネ※

君と話し疲れて
いつか 黙り こんだ
ストーブ代わりの電熱器
赤く燃えていた

地下のジャズ喫茶
変れないぼくたちがいた
悪い夢のように
時がなげてゆく

ぼくがひとりになった
部屋にきみの好きな
チャーリー・パーカー 見つけたヨ
ぼくを忘れたカナ

だめになったぼくを見て
君もびっくりしただろう
あの子はまだ元気かい
昔の話だネ
※繰り返し

JASRAC許諾

うたの旅人

新潟・柏崎



危ういバランスの「地下の歌姫」

ドラマ主題歌でヒットした「ぼくたちの失敗」

「海底劇場」は、その奇妙な名前が実在のものとは思えなかりそうなのと「日当たりのよい場所だった。それが音楽事務所の商号とは、およそ想像もつかない「海底劇場」は、東京の渋谷駅から歩いて10分ほどのマンションの一室にあった。

音楽プロデューサー・ミュージシャンの高橋研さん(54)が、「海底劇場」に入りびたるようになったのは1976年、盛岡から上京し、早大法学部の学生になって間もないころだった。同郷の女友だちに誘われて遊びにいくと、陽光に満ちあふれた部屋の片隅に、眼鏡をかけた年上の女性が一人きりで、物静かに分厚い本を読みふけていた。

「図書館にこんな司書の人がいたらしいのに」と感嘆したほど、彼女の容姿はびっくりした。フランスの女優のイザベル・アジャニーにどことなく似ていたという。

彼女が、まだデビューして2年目の森田童子さんだったのである。

「海底劇場」に所属するミュージシャンは森田さん一人だけだった。足しげく出入りするうち、高橋さんは、気心の知れるようになった事務所の社長から、森田さんの前座で歌ってみたいかと持ちかけられた。彼女はのどが弱いうえに、持ち歌も短い曲ばかりなので、ステージを30分持たせられないというのだった。

かつて東京の足立区千住にあった伝説のライブハウス「葦原屋」で最初に共演したとき、30人も入れば身動きできなくなる客席にその倍を超える人数のファンが詰めかけた。ギター一本で弾き語りする森田さんの吐息を感じられるほど間近に最前列の客の顔があったという。

か細い少女の、はかないため息のような歌声を聴き逃すまいとして、客は一人残らず前かがみになり、うつむきながら耳を傾けている。すすり泣くファンもいた。無痛のまま刺さって抜けなくなる、やわらかい針のように、むきだし心の暗部をやすやすと貫いてしまう歌だった。

「あつけないで壊れてしまいたいようなバランスでできあがっている童子さんの音楽は、聴いているうちに手に汗握ってしまう。客も自分の内面世界に入りこみ、歌詞の言葉をひとつひとつ自分の人生に重ね合わせながら聴いていた」と高橋さんは語る。

「森田童子」は偽名である。

●森田童子さんは1978年、この東京カテドラル聖マリア大聖堂でライブアルバムを録音した。東京都文京区●青海川駅近くの「恋人岬」。休日にカップルがひきもきらず訪れる。新潟県相模市

しかし、本名はまだに明らかにされていない。人前では黒いサンングラスを絶対にはずさなかったため、素顔をさらしたこともなかった。

当時、新しいアルバムが発売されるたびに彼女にインタビューしていた音楽ジャーナリストの富沢一誠さん(59)によると、デビューするまでの遍歴が、固有名詞を交えて事細かに語られることはなかった。

「52年、東京に生まれる。学園闘争の渦中に入った高校時代、ラジオの深夜放送でサイモン&ガーファンクルを聴いていた。70年に高校を中退、暇にまかせてふらふらと旅に出る。72年夏、友人の死を知らせるは

「私の歌は『思いこみ』なんだよね。友だちとはこんなふうに分れたなあ、というのではなく、こんなふうに分れたらなあという願望。その願望を歌って、それを青春として『思いこみ』んだよね……」

森田さんが発表したアルバムのプロデューサーを手がけた松村慶子さん(現・ライブハウス「BRINDO」会長)は、デビューする約1年前、知人の紹介で自作曲のデモテープを持参してきた彼女は、人前で歌うつもりは、まるきりなかったという。

「本人は髪形をポニーテールにし

て、どこにでもいる少女のような印象でした。でも作品には、聴いているとイメージの扉を開かれて慰撫されるような唯一無二のフィーリングがあったので、絶対に何かある、これはいけるーと直感しました。ただし、その独特の世界は本人が歌わないと響いてこないもので、あなたが歌ったほうがいいと説得したんです」

「私に対して、ほとんど私語を発しない。浄化された世界を表現した作品に自分の生活感をにじませないために、余計なことは聞いてもらいたくないと思っていたようです」

ライブハウスの旗手とうたわれるようになったデビュー3年目の77年6月、豊島公会堂(東京都豊島区)での東京初のコンサート「童子像」は、ついに定員約800人の会場から約300人も観客があふれ出してしまった。地下の歌姫として大学生を中心にカリスマ的な人気を博したが、高橋さんは「童子さんには、意地でも地上には這いあがるまい」という強固な意志があったという。引退を宣言することなく、音楽活動を休止したのは83年末だった。

デビュー当時の所属レコード会社の宣伝プロデューサーだった市川義夫さんは、「80年代になると、もう自分の居場所はないと思ったのか、新曲を作らなくなった。その意味では、溶けていくように消えていなくなったというのでしょう」と心残りをあらわにするのだった。

「ぼくたちの失敗」が、テレビドラマ「高校教師」の主題歌になってヒットしても、再び歌おうとはしなかった。彼女の消息を知る人を介して、その真意を問う対話があったと打診してもらった。だが、とても親しかった人との唐突な死別とみずから病で「手紙すら書けないほど憔悴している」という返答があった。危ういバランスでつなぎとめられていた世界が、またそこにあった。



ぶらり

JR信越線の鈍行で長岡駅から小1時間かかる青海川駅のほかに「日本でいちばん海に近い」と称されるJRの駅はいくつかある。鶴見線支線の花芝浦駅(横浜市)、仙石線の陸前大塚駅(宮城県東松島市)などがそうだ。海岸線との近さでは花芝浦駅が断トツだが、旅情をそそられる度合いを芸術点として加えると、やはり青海川駅は群を抜いている一写真上。

青海川駅のある柏崎市は、漆器、茶器などの文物の収集に血道をあげる資産家が数多くいたことから、「コレクションの町」を売り物にしている。駅に近い国道8号沿線には収集品の展示館が集まり、「コレクションロード」と呼ばれる。「柏崎コレクションビル」には、そのうち3館がある。「痴癖の家」(写真下、☎0257・22・0777)は全国の郷土玩具など約5万点を収蔵。「黒船館」(☎0257・21・1188)は錦絵など幕末の開港関係資料、「藍民芸館」(☎0257・21・1199)は藍染め布など民芸品をそれぞれ展示する。入館料は3館セットで大人1300円、小中学生750円。水曜休館。



「こどもの時代館」は昭和40年代をテーマに、ウルトラマンなどの当時のキャラクター商品を展示したり、当時の小学校の教室や子ども部屋を再現している。大人500円、子ども300円。木曜休館。恋人岬は「鷗が鼻」の別名。カップルが2人の名前を書いた札を手すりに錠前でくくりつけると恋愛が成就するといわれる。青海川駅から徒歩約20分。



見る

「高校教師 1993年版」のDVD-BOXが発売中(発売元TBS・販売元ポニーキャニオン、税込み1万9740円、写真)。「高校教師」は2003年に続編が放映されたが、やはり「ぼくたちの失敗」が主題歌だった。



聴く

森田童子さんは75~83年に「グッド・バイ」「東京カテドラル聖マリア大聖堂録音盤」「狼少年」など7枚のアルバムを発表した。それらは93年に再発売されたが、いまは廃盤になっている。「ぼくたちの失敗」は、「俺たちのフォーク! デラックス」(ビクターエンタテインメント)に収録されている。

読者へのおみやげ

「こどもの時代館」で売っている同館限定色の怪獣パラゴンのソフトビニール人形を5人に差し上げます。住所・氏名・年齢と「22日」を明記し、はがきで〒119・0378郵便事業会社青海支店留め、朝日新聞be「うたの旅人」係へ。27日の消印まで有効です。

今週の「うたの旅人」で紹介したCD、DVDはアサヒコムから購入できます。一部は試聴できます。<http://www.asahi.com/shopping/news/>

昨年3月までの「うたの旅人」が本(朝日新聞出版、1680円)とCD(キングレコード、2500円)で発売中です。ASA経由でも購入できます。テレビはBS朝日で毎週金曜午後10時から放送中です。次回の28日は「ゴンドラの唄」の再放送です。